

# キイチゴ「ベビーハンズ」の収穫本数

～樹勢維持管理し定期的に収穫すると10aあたり年間約6万本程度収穫可能～

## 背景・目的

- 宮崎県において、2013年度よりキイチゴ「ベビーハンズ」の栽培が始まりました。
- 北海道で見つけた品種であり、宮崎県の気候条件下での収穫可能本数が把握できていません。
- 現地では、栽培技術が確立しないこともあり過剰収穫・剪定や適期に収穫しない等により、面積あたりの収量にバラツキがみられています。
- 今回の調査結果から、年間の可能収量を提示し、定期的な収穫促進を目指します。

## 成果の内容

- 収穫のピークは5月であり、4～11月まで収穫可能です(図1)。
- 1㎡あたり40cm以上の年間の収穫本数は、定植1年目は約20本、定植2年目は約100本、定植3年目は約70本、定植4年目は約60本です(表1)

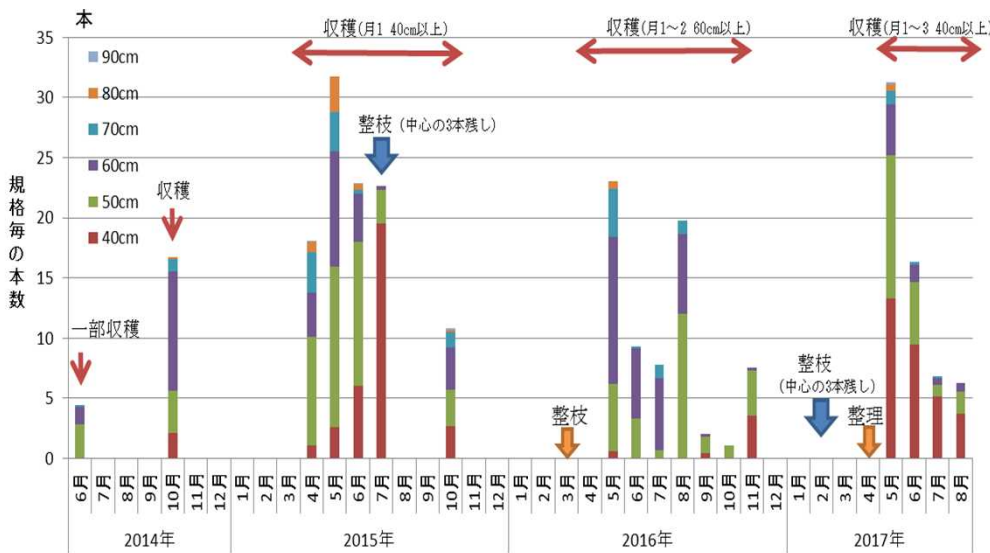


図1:キイチゴ「ベビーハンズ」の定植後4年間の1㎡あたりの規格毎の収穫本数

表1:キイチゴ「ベビーハンズ」の定植後4年間の1㎡あたりの収穫本数

	年月	月合計	年合計
2014年	6月	4.4	21.1
	10月	16.7	
2015年	4月	18.1	105.8
	5月	31.7	
	6月	22.6	
	7月	22.6	
	10月	10.8	
2016年	5月	23.0	70.6
	6月	9.3	
	7月	7.8	
	8月	19.8	
	9月	2.0	
	10月	1.1	
2017年	11月	7.6	60.7
	5月	31.3	
	6月	16.3	
	7月	6.9	
	8月	6.3	

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 収穫本数や頻度、時期の参考となり、安定的に収穫する意欲につながり、計画的に収穫することが期待できます。

## 留意点

- 亜熱帯作物支場(日南市)での試験結果です。
- 2013年10月に株間1m×条間1.5mで定植し、無施肥で管理した株の定植1～4年目の調査結果です。
- 収穫頻度については、図1に示したとおりです。なお、樹勢維持のために春に立った草勢の強い枝を1㎡あたり3本1年間残して管理しています。
- 2015年7月末の整枝及び2016年8月の多収穫後に収量が減少していることから、夏季の整枝及び収穫に留意する必要があります。
- 今回の収穫本数については、規格外(害虫、病気等)も含めた結果です。1ヶ月に2～4回の防除管理で1年間に約1～2割の規格外発生となりました。